





卯梅子句

坂東藏書

第一

梅



長以磨

紅梅や此報キンミラ公乃あきさるる  
 翠乃ニトリ梅と見ゆふまき柳 友仙  
 堤つ春乃日ニギキ記交つたて 正夏  
 よしわの河邊に道ゆきあそ 春  
 船以りそ乃名とてそむ知者 安  
 かりハ鷹よそむ目とてみ跡 可頼  
 月乃公乃あきさるる田角よ種とて 政信  
 陸で雪乃間とてさうす漁人 長久















十六のまよりく人代をあらひ  
又百羅漢の法くそなりて  
ひくろの群集とする也未嘗  
善くハ誰もれんや友仙  
うらハハ呪もあふ船の  
あはれありもあふ治香  
拾遺とわらぐすほして快  
此カをうらぐじくかあり

長次丸 廿 可乾 九

友仙 十三 改信 十三

正章 十七 長久 一

季吟 十五

安輝 十二

第二 録

身もあまもまのつらひやういん  
御遊のひかり照えぬ春  
月まも初子<sup>ツチ</sup>のまをいひて  
見船とほしとゆふ玉常  
除雪の乃すら作る花よ  
うまはなひそあふ物  
よれつひは稀かあふ  
こてをいひ乃むんそ

季吟

友仙

可乾

改信

長久

安輝



ひんかひむかひてくを思ひ  
葉からくひあうあはきふ又枝  
ゆいじを志しきくわら橋の  
おれまわ地をよむ難波寺  
伶女まきん歳はあわらん  
をせし夢えい在原乃姓  
岩の女社と地れたるは  
神宮れ志すあういふ乃陰  
白法乃すえとくくは江連角  
小女小屏風乃月乃さう縄  
男にめしてさすく嫂かふれ  
何くさく寝はあれ半枕  
らんりともくそく待おる花  
地をうくく川と極もまき  
友仙 友仙 友仙 友仙 友仙 友仙 友仙 友仙 友仙 友仙

升とあれ子源と神と霞と  
身とわうのいよそあのか  
日照とあけかひあくと志道  
仙乃いかりとと魚乃んめは  
麴も久米の山やのりる  
海くたわあ岩橋乃末  
泉あ乃流まいつくを千町  
小餅はつとれ土鱈すく魚り  
ふをまき籠とひのりまおて  
ひまらうすりえと大園  
不うらあ茶と月の花梅也  
春日魚とわろそくらん  
龍具ハ清教原と想命  
受は乃瓶治乃家そ久き  
友仙 友仙 友仙 友仙 友仙 友仙 友仙 友仙 友仙 友仙























いふにう國阿と洋に被るる  
坂高とくまわらう水城の  
菫とより意慶はもゆりて  
月お守り此や塩高はす  
雲気なりとうめたるは  
書第のりりとうらう  
を光したるぬをうら  
月り意守高のまはひゆ  
物おのぬをぬの扇打  
名知てもはぬ風高令  
いふれは情よいつる  
日月はくくあけり  
縁ありぬも糸りて  
ちれお児り思ひぬり  
友仙

やほはら女を現儀り  
かこころさんており  
んくハ神泉苑へ  
半歌天王乃御供  
菫菫月は種民か  
ふりや凍一秋れ田乃  
百人一首をま  
二条の家は生れ月  
でいわはら縁  
そくわで益乃  
時どりもま  
らしゆわらう  
子ぬも縁を  
目をくまう



双六のさじくゆりやうらん 政信  
 弟系れ神傳る系れ神 友仙  
 之破れ雲をせよまうみ理れ声 友仙  
 寸白もたつくり舞れりるち 友仙  
 麴やうを羽乃虎のさうり出 友仙  
 味咄黄白ののりくく肌灰 友仙  
 いれりも縁乃目ふに照事あり 友仙  
 之すやすとせ高大軍れりか 友仙  
 正章 十七 友仙 十回  
 季吟 十回 安翁 十三  
 長久 一  
 可頼 十二  
 政信 十一

弟曰

郭公

な氣おぢるあむと名風子親の声  
 ここの采所れは乃所れ花 正章  
 阿六の乃種つく種れし種名と 友仙  
 今や逢しとしまのあがらり 政信  
 紫系えんちおの末座の吹の舞 友仙  
 大呪をわも小呪をうらうら 友仙  
 神乃らちま極る極やえん物ん 友仙  
 月世なり深なる山ふら 友仙



吹奈乃雪子物産す人あま之  
 交野のくまこひえて有り作  
 霍也せん付幸乃供也の  
 のらての川典茶の吹ん  
 新乃丹波布の笠あふ  
 首途乃るとかひ乃波あえ  
 山伏の提着の山流のあえ  
 富樫乃酒といそそそそ  
 四乃乃のあびそ乃菊枝乃  
 多外したるを松小守乃  
 鏡やの秋小神あふ地そ  
 月乃乃限乃ますのつあ人  
 おろのくねもさるあひひ  
 吉輪とさあやまあをれ乃  
 虎

神の吹せし黄鸚啼つ池し  
 糸乃乃のり同乃乃守乃  
 古又連歌さくそあ乃乱  
 中乃乃のりや鏡波のあえ  
 蹴あはして中乃毛乃乃乃  
 鞠の秘乃とく乃乃道乃れ  
 危下乃乃乃乃乃乃乃乃  
 裁乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
 遠来乃乃乃乃乃乃乃乃  
 人磨り乃乃乃乃乃乃乃  
 一合乃乃乃乃乃乃乃乃  
 文乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
 権乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃



南の海に小豆留り分りて 友仙  
海より遠く東の港の百姓 友仙  
門は乃ちと森乃せきこがけ 友仙  
嘆れりも味わらぬを塔の氣 友仙  
月送り寝つ解意と我は 友仙  
秋ありやめいひく使つる子 友仙  
吹く海に流る時としりと矢 友仙  
波乃流るをゆき舟に 友仙  
孝い子共はあつたは 友仙  
末世へしぬ杖の思は 友仙  
活けまへん福をきくとおは 友仙  
ろくろのおおとらひのり 友仙  
教むの海ははち柳籠 友仙  
流の芝よりあつるまうを 友仙

永日は善徳の流る地とて 友仙  
内裏乃らりよ夫とくわぬ 友仙  
係りの業とて刑の脚 友仙  
田舎よりこれ系地の早下 友仙  
麦飯汁の海をどのうぬ 友仙  
泉郎人まへを移るを 友仙  
屋公の地系乃系は行り 友仙  
穀とく守りて移るを 友仙  
さすくは常は二葉も見は 友仙  
兵庫の里の川の知り不 友仙  
下と下り想昌とて何作 友仙  
糸もあつたを籠りて 友仙  
鷹金も月乃杖つてそ 友仙  
骨くはくく門お撲り 友仙







芋をわらもろくまふあつたて  
雄輝乃月あしり若や  
埋せ好は湯と日すそ種は  
魚のひもそ縁るふ大を并  
末結の鹿嶋乃津といくら  
形やうよ運と日く他若法  
まを好お玉渡しくろ下場の橋  
ゆ養てと宗ふか法と種若  
友仙

- 安祥 十三
- 季吟 十二
- 心章 十七
- 長久 一
- 可頼 十二
- 政信 十二
- 友仙 十二

第五

盧橘

えい何とく人けり着本やん  
あ月あしり若や  
長久と縁と養そ子細垂て  
仙人やとひ池乃中物  
う存ん乃翁と乳と岩らみ  
う付紙りしが春乃物  
ひいごるは後子よまを  
空より力大や史てさるん







安人の氣よ何可や神なるん 玉露  
とくもなほとくもたままきつり 露  
しりよりと備て凡中演磨河 安  
公家乃目けは満吉のふり末 露  
縁り骨さる者来氏に極わも 友仙  
なと心豊乃前の扱むし 露  
後進も天約と云い此遠くれ 露  
上乃能破りせさ心ゆひ 露  
善竹のよ給し神はふたを 露  
又つて夢の凡んをくしあき 露  
宵片月とそわゆひしと下家 露  
躍りおさわうしと魚れ者 露  
花津の又尺乃布也にじけん 露  
去徳とと徳と人もせず 露

井よ心層蕪白散とおきれ 露  
とえく酒り外一脾の勝 露  
わひさうもなきい腕のあは 露  
猿まじしとわをせず出す 友仙  
ねてよ弓射のまのもはらりや 露  
芝居よいたく懐幕とくえ 露  
夜面もとりて細きとくうあま 露  
耳ををれかしのわ鹿乃青 露  
穂山と徳るのゆりそあけ 友仙  
明河河りうのる月影 露  
仲磨が別道傍じよ小巻也 露  
あつしこめし酒夢とくうあま 露  
春とく小文もつじとあは 露  
瓦上乃りそらうそとつて美 露



おやまはらんを驚り八初瀬山 石  
見まてお遊と池をす人跡 瓦  
ま割た為小神と今もあはし 政信  
善道寺大御中より小御殿を 正孝  
うん気まののりだして松さか 瓦  
とあつと子安乃甲斐も御の 瓦  
老乃坂でか神舞のあひを 正孝  
作よりおれん重代乃太刀 友仙  
あつひの侍位をよめよ引え 安政  
玉乃泉流京を流し 瓦  
水晶乃やうお岩根は縁起 瓦  
弁才天れまのり月 正孝  
くらあひまよるもこれおまの 友仙  
う魚乃乃青の流し 沙汰 政信

おのかりと降家めは小田乃 瓦  
うれしうそか存高し 瓦  
冬じまも垣根とせあ土猪 正孝  
完りう氣乃牙あはし 瓦  
夜よぬて留の時ハ母は 政信  
人うと月乃り人あはし 安政  
福にてごころ措きあり 瓦  
物か母もゆりす御産あ 友仙  
うの波乃急をさるあ不知今 瓦  
なんぞとんを流しあはし 瓦  
物まもりあはしの時より 友仙  
そ美水神と分りあはし 正孝  
高屋ともいふあはし 安政  
麦秋めける時家乃大徳 瓦



題詞や藝しゆりく巻くは場よ  
佛法のなれぬ思乃の以  
大なる物事やなまは清か  
く風おもまのつらり路  
らるるによみすやふり  
ひるまてふの行跡なり  
終乃の途の陰陰しす  
御性巻りもどく地乃かん  
友仙

可頼 十三 正章 十六

長久 十八 季吟 十五

改信 十二 長久 一

友仙 十三

安野 十二

弟六 雁

薄雪乃分の鷹や志が文字  
いほもなほと嵐乃落葉  
あまの海月いづく秋の  
衣拵乃ふあれ家も志  
月影もこすうよ見ゆ  
つらもくも寐ぬれ  
野等猶乃足跡あるら  
らしくめとや出寸天

改信

友仙

長久

安野

可頼

正章

長久



宿まする格近の指身奇麗に 友仙  
所の書院乃うらひな来一 政法  
懐り硯の海にいてさき 孝  
高船出舟の波れを清 亮  
かるとどからのの束の結び 可親  
年打て供りりせむる蘇 安翁  
大名のふぐらう玉祭 亮  
焼籠もろの月入る乃坤 正家  
紫めどく徳守の茶知い 政信  
石上くもよるま大方 孝  
跡つて内山伏の末なと 正家  
勅を拙の紙やうら 友仙  
おつめてかえぬる徳の舞 安翁  
くるま心乃言そまめく 孝亮

くんがわと啼と震ようらあき 孝亮  
無想や統乃廻びんをり子 可親  
深山の人傳はく書れ法 亮  
岩根乃水流るるまの教心 正家  
氷澄く食欲垢や落すん 友仙  
たぐれまどひのわおしり 亮  
坊のひあるも字の付れとばら 可親  
横河かろ守てとる玉交 安翁  
さくまのひの徳乃格氣 正家  
そとらひく矢ハひり小書 政信  
今迄もの小徳念の持立 亮  
兄乃の寂後と勵すの 友仙  
梅乃美代なるまの月 友仙  
陸奥乃雨と法とくく 孝亮



郭公がんてして久群うん 安鈴  
 死出乃ふ高の便宜をたふ  
 神のや相令つれ川の途河  
 来うらつとつしめりる  
 為基と守とつに哉  
 切燈燈乃乳れ中飲  
 建水乃やうな  
 門くわりのさ  
 孟蘭盆をう  
 後せのえん乃  
 濟公の才わめ  
 寺たはりのつ  
 海をのらひれ  
 徳神おもて

永日よいら  
 神乃液や拭  
 塩電り  
 ひく  
 わ鉄  
 料理乃  
 閑目  
 解更  
 おる  
 百乃  
 月  
 舟  
 ひつ  
 ひん



湖乃浪と枕よ中りあはるる 友仙  
凡そあはし明し一書し 友仙  
愛する情と世を懐懐の意 友仙  
花をまきそ乃りそ又は法 友仙  
なべてをまきとおそしめ 友仙  
よく改めよ是乃端あひ 友仙  
心は心の跡まきよす 友仙  
何とぬらひとれも一書 友仙  
世候をもよもそ若香かまら 友仙  
花車なる今乃有得なる 友仙  
三階や二階乃と月も 友仙  
ちんねん笠もいぬあめ 友仙  
あなは花はあはる松はほ 友仙  
春乃ゆもよす心病の著 友仙

飄揚の光あまの阿弥院堂 友仙  
夜合の枝青り空の凡燭令 友仙  
十連の神と凍しく撥合也 友仙  
空の山の弦ハ二幅一對 友仙  
柄酌いぬ物は温菜入る 友仙  
あそびの情も強けれど 友仙  
惻愍の心より種は打みて 友仙  
見て一人の魔字空の 友仙  
あそびとまき五山そ 友仙  
跡を詠めてありり東拂 友仙  
やとよま冬玉の月や 友仙  
春乃梅花りる月夜 友仙  
新胎とてあそびの 友仙  
かどそとあひらす 友仙











杖をのびとりのやまうそしん 夏  
何のうひと地の人そぞろく 夏  
くまのやまもくも雑味の鱒 友仙  
卒夜じりも卒夜夏の極 季  
金刺帯の利根なごも男の乳 夏  
ろぞろはなまひあつ秋乃ぬ 安詩  
二千里の外も品高角の書 政信  
紀乃活の漢とゆき度乃神 夏  
かごよめと解まぬはなは 季  
蓋造乃田舎と下名の地徳 夏  
白濁と去た久くあふもて 夏  
なごひのわろー百姓乃乳 夏  
ろー毎よ野藁やの花のり 夏  
は連うりりする麻のあらぬ 友仙

白散と福まこと也御後有は 夏  
かせと海姫乃歩とそろく 夏  
急暴ゆい作留の位居とまて 政信  
いそ〜ううあ〜ろり名よ名 夏  
舟舳やせとまの樹山まの尾 夏  
干と若乃殺うとらん桃焼 季  
つら〜れり縁登雲の枝とれく 友仙  
大智ふれり一乃答あひ 安詩  
氣度平安城のそよ乃月 夏  
博士りとりん秋乃あると 夏  
飲といまうらまのほしとや 季  
落乃種うけうじ落武者 長流  
神の露目り〜うろく泪光 夏  
石乃外よゆ〜り別海 政信



出稽り乃活ハ細くよつるまそ 友松  
 中くもなほ空を乃ハひ乃 友松  
 徳勝ハ氷砂糖やふくからんハ 友松  
 せんさいおろくくもくくらぬ 友松  
 五月ハ臭足乃疑ひゆるるびて 友仙  
 乃ハ害せぬやと一との夫 孝信  
 歳去くどくわらむ成の法も 友松  
 紅ハ河原乃しんゆの根 友松  
 鮎つじひくもおもぬ家も 友松  
 門流のよある文月のり 友松  
 山科や雉の町ハ乃夕々れ 友松  
 旁ら乃よ乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 花乃活り乃の御教り乃乃乃 友松  
 相の紋ある幕乃乃乃乃乃乃 友仙

鳳凰もくくハ乃乃乃乃乃乃 孝信  
 獅乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 金剛山乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 良乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 石垣乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 米松乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 難波の乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友仙  
 病者乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松  
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 友松











輪もわきのまきぬまの徳り  
玄の乃高家此の徳の徳  
凡種とまらん垣杭のひし  
りく小瓶り用んぞす侍  
一めんは氷ざらり所流流流  
風のりありやすきさるに  
古文と守り社人の府す  
出来太子つりし御威勢  
まげさうまも強中お茶  
月の中後も月影のうけ  
秋空より川とふのき園徳  
あみた流るる徳の香氷  
花のくはりの徳もつとめ兼  
志不り志慕せよ志集の人

清あがりし乃りくみ救く  
獲りや何しとまも徳は徳  
一揆りこの徳徳の素は  
山坂とるは素人徳中  
籠乃おろるる十津川の徳  
少めさるる徳に徳と徳  
源氏とたどす乃中徳  
徳とまも徳の徳の徳  
死よのりりし徳や徳  
徳付はす乃十乃乃徳  
あす乃乃徳も徳と徳  
御手洗乃徳や徳と徳  
徳の徳徳と徳乃徳







沖厩や秋の約稿は穠まじ 正章  
小鶴乃夫ハ引のけとけ 友仙  
紙ハくそ死子ハ別乃屋り 友仙  
嫂ハ乃折りとて心実め 友仙  
かさざりありとや 友仙  
乱ハ髪りもたたる名番 友仙  
渠多流宛のやうある風長 友仙  
カガキ 友仙

安靜 十三 政信 十  
正章 十七 友仙 十一  
可頼 十三  
友仙 十一

第九 雷

白虎の竹乃林はまき 友仙  
叢乃玉となぐ 友仙  
ちよくと穴あけ 友仙  
もす根とどろく 友仙  
是りし 友仙  
月あふ 友仙  
穂乃日 友仙  
牙あめ 友仙



夕露乃そくく桃乃葉と感の 正家  
汗あにじとどろりすなり 友仙  
拙の筆玉用のうらふはとせり 政信  
りし心肺布やたぶらるる 友仙  
さねよらひ風もかよえ 安政  
麝香はしり人香るる 友仙  
抄よ秘苑のまぎもはる 友仙  
うくすくす庵の将乃あま 可乳  
悪しと捨く陀佛と名を付て 友仙  
桃乃彼巻よ equal 友仙  
のまのうらぬぬ葉の子なり 柳 友仙  
破痛のやうなる流の露お 安政  
坊あるまゑに花よりやうかよ 可乳  
馳乃おとくろろのとなき 政信

同じ永ま詠哥やまの女字傳の 正家  
息もつぎあふあ坊の小行は 友仙  
音よふくあやの祭とまにれ 安政  
くろとたぐらうし流くあや 友仙  
二乃町よまゝのまをくあや 友仙  
鳥凡とも出せ市乃棚 友仙  
あなりの月夜は小るやうに 政信  
まの茶よもまの秋の湯 可乳  
梅のり喰くう通ふお家納 友仙  
あまの山ととせりあまの山 正家  
すひらくも棚やあまの山より 友仙  
とらふた暮のあまの山を何く 友仙  
那智の流はにけの母の楯枕 正家  
不圖着てこまの瀬波のとも 安政



のまゝなりやとせかたなるは留 乳  
 院乃さされ昔れ物あ 陰  
 撞花をさるるそ亭まはのん 亮  
 吐寸ハ秋の一日乃交 亮  
 月まへも百韻ま舞えそと 亮  
 蹴乃お中カキのさそあすは 亮  
 尖でしようもいあふそ然あ 亮  
 多乃やまひ屋なるそん 亮  
 空返や八波で鮎サバりそと 亮  
 乞食コジキわあまじ能宅の國人クニノト 亮  
 辻堂ツチノ谷乃價アタヒとそつそ 亮  
 地蔵がさひよ茶とそま向 亮  
 舞ハねつめさめりわつそも 亮  
 梅津の過り坊やとそま 亮

乃と神垣ひるままどそ 亮  
 御燈もゆふ月乃明く 亮  
 方丈より秋乃雲の白く 亮  
 武部がゆひ露よなま 亮  
 山又遊ん宰府サイフへ生るそ 亮  
 淡奏ダシソウとせりけうそ 亮  
 下とわら治乃チキるそ 亮  
 初禱ハツテよりくろくシロカシ白髪 亮  
 去遊サユまけめや身乃ミ麻利マ支天シテン 友仙 亮  
 大系乃帳治乃テウ流乃リウそり 亮  
 科トカわるといそまけそあ 亮  
 王乃オウそやめとそ 亮  
 わづめらうかそ 亮  
 三鴻曆コヨミクととく文 亮



年始り京とハ甘ひ侍屋敷 友  
難煮といふもさす人此神 友  
よるもあやとりしむす家名 友  
落ひもあつ約計乃東 友  
余念なく蹴り新篇はあ輔世 友  
本洞乃猫やざれまがりわん 友  
の尻も咳かたれらるあま 友  
沈着るやさそ旬少く華 友  
家名乃新篇よつれさそ世 友  
八揃交れ秋の店前 友  
裁多る三木乃さくぐさ親りて 友  
お礼とP二人此重 友  
能果てさにくらも母衣 友  
岩をすさくつらむよ良坂 友

物々し乃良家ゆらぬま 友  
種姓とらさそそとや有得者 友  
柴寝よおそいさまにや小夜 友  
筒りあつさとのそこのびす 友  
乳のそ子があつて徳や心 友  
守り袋ハハウらおがさる 友  
そらさやどいふ力もはくそ 友  
喧嘩あつて有久の所てゆく 友  
ひの志んひあ痛所えもさ 友  
秋乃ん山やようそれれ内 友  
早散よあつ松茸かうやほ 友  
あふり運気乃あつあつた 友  
わりの月よえとあつた 友  
小づじの子岩や志まさん 友



細文殊つゝ命しこも名をえ 正家  
 なるをぞとてりこらみ味も 政信  
 唯ハ鬼ガ少ビるや木目ナシ 義亮  
 ちびて節もよふふかみん 安政  
 農人もすつろやとじさ 義亮  
 中河色こりこり 義亮  
 蓬萊と鳴やふつて 友仙  
 換田と親子勸修し 義亮

友仙 十三 安靜 十二  
 正章 十六 可兼 十二  
 毛丸 廿一 孝久 一  
 政信 十二  
 孝吟 十四

第十 歳暮

下居りて心 歳暮 義亮  
 何れも 餅 友仙  
 生まぬや 高人の家 義亮  
 月夜又色玉 行石 義亮  
 身は ぬき 義亮











戸柳の浦をさう下乃國かの國 鹿  
もも從者もたがんをらん 鹿  
本車也抱へし侍るゆらん 鹿  
たんととのりも坊だーひやく 鹿  
昼食とををらあへんをせと 政信  
今山松乃夢信すもなり 鹿  
正真の似せり余念のなげん 正孝  
為と法信しそあすかれ 安野  
不動者と焼ゆり秋乃佛あ 友仙  
月くさ支法ひりり能明 政信  
純王乃おろるとそくす謝あ 長茂  
車乃攸りく河波乃攸 正孝  
垂布と舞はれやよけきり 政信  
鯨にらゆるとし徳の茶 長茂

かぶりかきりり松守元良じ 長茂  
このあきごともしもよまたあはる 政信  
宇津の又みひりしよ神田権 友仙  
いづもたけ夏乃天山 安野  
なもつがもあはれをゆり郭云 正孝  
松子あしといふも今ななり 長茂  
を法八頼乃攸ひするももせ 長茂  
鹿とあまれし名目いけは 正孝  
結おつられりのくそ真あ 政信  
よめやいそきあ悟れいそく 長茂  
おとものあはしが二夜も舞 安野  
半月の突入り名はるあなをる 長茂  
傑りしらする器也や玉琴 正孝



公家氣乃秋よ美なる種の花 友仙  
 車乃巻之何ぐけふ山坂 安野  
 宜方此来と御流せんは 友仙  
 救の身乃能くつそかり 友仙  
 毎日乃人歩もたは 友仙  
 命部とつていふこゝろ 友仙  
 花乃種り大鷹小鷹居せて 友仙  
 春乃たつとて紙八年玉 友仙  
 正章 十九 政信 十  
 友仙 十五 友仙 十  
 季吟 十七 友仙 一  
 可頼 五 友仙 一  
 安野 十三 友仙 一

此が

花乃葉の松よ之のり 友仙  
 義乃能くは 友仙  
 六角のたつとて 友仙  
 春乃たつとて 友仙  
 花乃種り大鷹小鷹居せて 友仙  
 春乃たつとて紙八年玉 友仙  
 正章 十九 政信 十  
 友仙 十五 友仙 十  
 季吟 十七 友仙 一  
 可頼 五 友仙 一  
 安野 十三 友仙 一



右左の詠諧連弁にあやう  
交仙先生ためらるるく信一  
庵とてしめらるるはれあめ  
花咲乃老翁の此るは長  
い中せえあめれ志のあ中  
下部よりくそ風をあまき  
うれはれをくむものり  
乃終るすよりうらうの  
につたものこゝ休南池  
ともめうと養らまゝの  
片のひをこゝく添削をま  
せ合志をこゝいぬがり志  
れせもももももももも

らせももももももももも  
ひみれよまもももももも  
つまももももももももも  
ももももももももももも  
まれももももももももも  
ももももももももももも  
ねもももももももももも  
にまももももももももも  
友仙先生ももももももも  
をもももももももももも  
ももももももももももも  
ももももももももももも  
ももももももももももも  
ももももももももももも







明曆元年乙未五月吉日  
敦賀屋久兵衛開校



